

広島大学 高等教育研究開発センター 大学論集
第40集 (2008年度) 2009年3月発行：299-312

台湾における入学者選抜制度多様化の現状

— 繁星計画の動向と進路指導 —

杉原敏彦・永田純一

台湾における入学者選抜制度多様化の現状

—繁星計画の動向と進路指導—

杉原敏彦*
永田純一**

1. はじめに

2007年11月、交流協会¹⁾の依頼により、台湾の高級中学校長等からなる教育視察団の一行に対して、日本の高等教育・中等教育の現状に関するレクチャーと意見交換を行う機会を得た。台湾の高等教育、中等教育及び入学者選抜制度については以前から関心を持っていたが、この行事を契機に、交流協会及び台湾教育部（日本の文部科学省に相当）との連携が可能となり、当該諸機関の仲介もあって、2008年3月、台湾の大学、高級中学及び教育部への訪問調査が実現した。

本稿では、この訪問調査をもとに把握した台湾における入学者選抜制度多様化の現状、とりわけ新たに導入された「繁星計画」の実施2年目の動向と高級中学における進路指導について報告する²⁾。

2. 台湾における入学者選抜制度の概略と「繁星計画」の導入

台湾における入学者選抜制度は、変更と曲折を含みながらも概ね「統一」から「多様化」へと推移していった³⁾。

1954年以降、複数大学による連合募集が実施され、以後40年余りにわたってこの「統一的」な制度が台湾の入学者選抜の中心となっていた。その後、特に1990年代に入ると、従来の連合募集方式の再検討が図られ、学科能力テスト及び推薦入学の導入等の入試改革が進み、台湾の入学者選抜は「多様化」に向けて舵が切られていった。

台湾の入学者選抜の現状は、大きく分けて、学科試験を中心とする「試験分配入学制」と「学校推薦」・「個人申請」からなる「選抜入学制」の二つの制度によって実施されている。加えて、選抜を行う大学の学群・学系等により採用する試験科目、配点の設定、学校推薦と個人申請のいずれを実施するか等の違いによって、様々なバリエーションがある。

このような入学者選抜の多様化は、教育部の指導によって進められてきたが、2007年度（台湾の年号では96年度）、新たに「繁星計画」（「2007学年度高級中学推薦入学学生募集の試験的実施」、その略称が「繁星計画」）が導入された。この「繁星計画」を先行して提唱したのは国立清華大学である。同大学の入学者が特定の進学校に集中していることを踏まえ、大学進学における都市部と地方との格差解消を目指して、全国の高級中学から推薦された学生の入学を期待して提唱された新推

* 広島大学入学センター教授

** 広島大学入学センター准教授

薦入学制度である。この制度の眼目は、「繁星計画」による募集人員については、各募集単位当たり一つの高級中学から合格できる者を1名だけに制限することになり、その結果、これまで合格者を出していない地方の高級中学にも当該大学入学者が拡大することになる⁴⁾。

教育部は、この制度の趣旨については評価しつつも国立清華大学1校の実施ではその効果は乏しいとして、国立清華大学も含め「国際一流大学及び先端的研究センターに向けたプロジェクト」に加わる12の大学すべてが参加するように強力に指導を行った。その結果、2007年度入学者選抜において、先行する国立清華大学とそれに続く11大学の計12大学で、「繁星計画」が実施されたところである⁵⁾。

3. 繁星計画（2008年度）の実施内容

教育部は、社会的評価を得ていると判断し、2年目（2008年度）には「大学教学の卓越を奨励するプロジェクト」にかかわる13の国立大学が新たに参加することを決定した（南部, 2008, 139頁）。最終的に2008年度繁星計画に参加した大学は、国立台湾大学、国立台湾師範大学、国立台湾海洋大学、国立台湾科技大学、国立台北芸術大学、国立台南大学、国立聯合大学、国立陽明大学、国立東華大学、国立中正大学、国立中興大学、国立中央大学、国立清華大学、国立政治大学、国立成功大学、国立新竹教育大学、国立彰化師範大学、国立高雄大学、国立高雄師範大学、国立交通大学、国立嘉義大学、国立暨南国際大学、長庚大学、中原大学、元智大学の計25大学である。

「国立台湾大学教務處」発行の『97学年度 大学繁星招生簡章彙編』（国立台湾大学教務處, 2008）によると、その目的は次のように述べられている

「立場の弱い人の面倒をみよう、各地域の均衡を保とう」という信念を実現するために、「国際的に一流の大学及びトップ研究センター計画」と「大学ティーチング卓越計画」の25大学が教育部の審査を経て、「97学年度大学繁星計画募集」を実施し、各高校の可能性のある優秀な学生が良い大学に入れ、将来社会に貢献できるように、全国各高校の英才を発掘することを目的とする。

実施1年目は制度の提唱大学である国立清華大学のみ単独で募集を行ったが、2年目は他の24大学とともに共同で学生募集を行った。国立台湾大学が実施事務局としての機能を持ち、ひとつのまとまった実施形態をとっている。出願はインターネット上で為され、選抜を実施する大学側もインターネットを利用して出願書類を収集する⁶⁾。

大学別の募集人員の1年目と2年目の比較を図1に示す。左側に2007年度実施大学をまとめ、右側に2008年度に新たに参加した大学をまとめている。特徴的なのは、国立台湾大学や元智大学では募集人員が2年目に2倍以上と大幅に増加しているのに対し、国立政治大学、国立交通大学は減少、国立中山大學は募集人員ゼロとなっている。また、図2は同様に学群ごとに募集人員を比較したものである⁷⁾。学群は、第一学群（文学・法学・商学・社会科学・教育学・経営学等）、第二学群（理学・工学等）、第三学群（医学・生物学・農学等）、不分学群（学群に分けない）である。1年目から参加している大学においては、第二学群の募集人員は前年の約3倍、第一学群も2倍以上になっている。

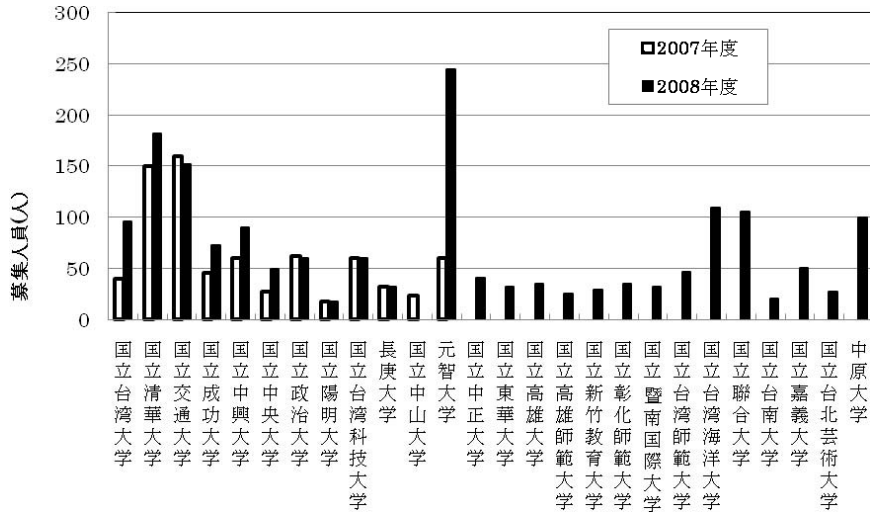
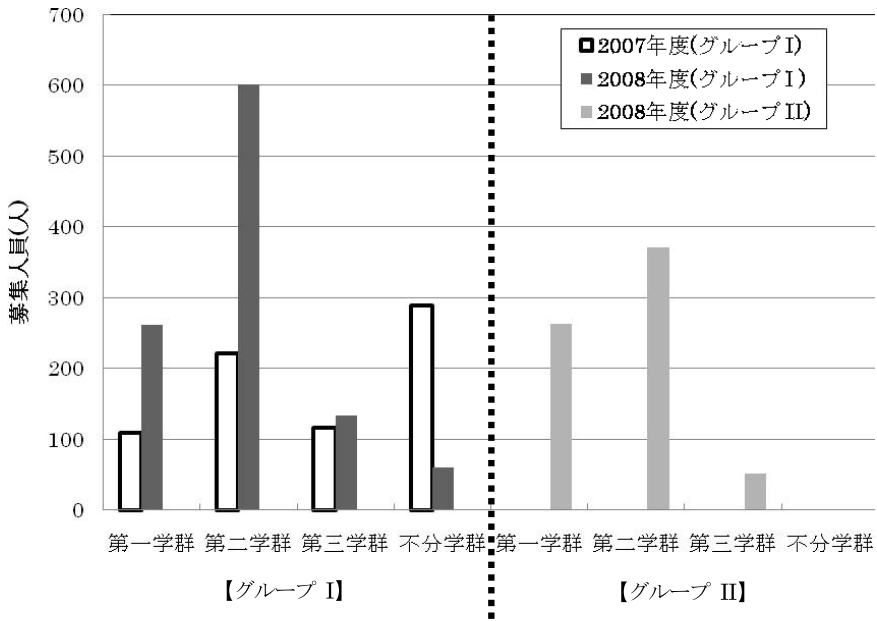


図1 繁星計画1年目（2007年度）と2年目（2008年度）における各大学の募集人員



(グループI：2007年度，2008年度と継続して参加している大学，グループII：2008年度に新たに参加した大学)

図2 繁星計画における学群別の募集人員に関する年度比較

一方，一部の学系で定員管理が行われている第三学群は若干の増加にとどまっている。また，2年目に新たに参加した大学では，やはり第二学群の募集人員が多く，次に第一学群が多くなっている。不分学群は新規参加大学では募集がない。全体の総計でみると，1年目は募集人員全体の30%の割合であった第二学群は，2年目には56%と増加しているのに対し，第三学群，不分学群はそれぞれ

表1 2008年度繁星計画における大学別募集人員数

| 大学名 | 学群 | 学系数 | 各学群 | |
|----------|------|-----|--------|---------|
| | | | 学生募集人数 | 学生募集総人数 |
| 国立台湾大学 | 第一学群 | 22 | 34 | 96 |
| | 第二学群 | 17 | 30 | |
| | 第三学群 | 19 | 32 | |
| 国立清華大学 | 第一学群 | 4 | 45 | 182 |
| | 第二学群 | 18 | 137 | |
| 国立交通大学 | 第一学群 | 3 | 9 | 152 |
| | 第二学群 | 16 | 121 | |
| | 第三学群 | 4 | 22 | |
| 国立成功大学 | 第一学群 | 10 | 12 | 73 |
| | 第二学群 | 25 | 50 | |
| | 第三学群 | 5 | 11 | |
| 国立中興大学 | 第一学群 | 10 | 20 | 90 |
| | 第二学群 | 10 | 30 | |
| | 第三学群 | 15 | 40 | |
| 国立中央大学 | 第一学群 | 3 | 10 | 49 |
| | 第二学群 | 12 | 37 | |
| | 第三学群 | 1 | 2 | |
| 国立政治大学 | 第一学群 | 24 | 52 | 60 |
| | 第二学群 | 5 | 8 | |
| 国立陽明大学 | 第三学群 | 5 | 17 | 17 |
| 国立台湾科技大学 | 不分群 | 1 | 60 | 60 |
| 長庚大学 | 第一学群 | 6 | 9 | 32 |
| | 第二学群 | 6 | 13 | |
| | 第三学群 | 7 | 10 | |
| 元智大学 | 第一学群 | 6 | 70 | 245 |
| | 第二学群 | 8 | 175 | |
| 国立中正大学 | 第一学群 | 16 | 27 | 41 |
| | 第二学群 | 10 | 10 | |
| | 第三学群 | 2 | 4 | |
| 国立東華大学 | 第一学群 | 9 | 16 | 32 |
| | 第二学群 | 6 | 11 | |
| | 第三学群 | 3 | 5 | |
| 国立高雄大学 | 第一学群 | 5 | 14 | 35 |
| | 第二学群 | 7 | 21 | |
| 国立高雄師範大学 | 第一学群 | 4 | 8 | 25 |
| | 第二学群 | 7 | 16 | |
| | 第三学群 | 1 | 1 | |
| 国立新竹教育大学 | 第一学群 | 7 | 23 | 29 |
| | 第二学群 | 2 | 4 | |
| | 第三学群 | 1 | 2 | |
| 国立彰化師範大学 | 第一学群 | 11 | 18 | 35 |
| | 第二学群 | 8 | 16 | |
| | 第三学群 | 1 | 1 | |
| 国立暨南国際大学 | 第一学群 | 11 | 22 | 32 |
| | 第二学群 | 5 | 10 | |
| 国立台湾師範大学 | 第一学群 | 13 | 31 | 46 |
| | 第二学群 | 9 | 14 | |
| | 第三学群 | 1 | 1 | |
| 国立台湾海洋大学 | 第一学群 | 1 | 5 | 109 |
| | 第二学群 | 12 | 82 | |
| | 第三学群 | 5 | 22 | |
| 国立聯合大学 | 第一学群 | 4 | 20 | 105 |
| | 第二学群 | 13 | 85 | |
| 国立台南大学 | 第一学群 | 9 | 11 | 20 |
| | 第二学群 | 6 | 8 | |
| | 第三学群 | 1 | 1 | |
| 国立嘉義大学 | 第一学群 | 8 | 16 | 50 |
| | 第二学群 | 11 | 22 | |
| | 第三学群 | 6 | 12 | |
| 国立台北芸術大学 | 第一学群 | 6 | 27 | 27 |
| 中原大学 | 第一学群 | 8 | 26 | 100 |
| | 第二学群 | 13 | 71 | |
| | 第三学群 | 1 | 3 | |
| 総計 | | 505 | | 1,742 |

16%から11%、39%から3%へと減少している。大学別の募集人員の詳細を表1に示しておく。

繁星計画では、まず最初に受ける試験は、学科能力テストと呼ばれる大学入学試験センターが実施する統一試験である。この学科能力テストの成績について、大学ごとに選考基準を設定し、大学の特徴を出している。南部(2008, 137頁)にあるように、点数による順位づけは行われず、その代わりに、得点分布によってグループ分けされ、そのグループは高い方から「頂票」「前票」「均票」「後票」(南部, 2008, 137頁)と呼ばれている。大学が受験生に求める学科能力テストの教科別の成績は、それぞれの学系(日本における学科・コースに相当)別に、この「指標」を用いて表示される。ある大学・学系ではほぼ全教科にわたって「頂票」であることが求められている一方、「均票」が多い大学・学系もあり、求められている成績も分散化している。

表2は、学科能力テストの指標を学群ごとに科目別でまとめたものである。この表では、学系の数を2008年度繁星計画参加25大学の募集単位のなかで数えた結果を示している。学科能力テストに対応すると思われる日本の大学入試センター試験を考えると、日本の場合には素点による順位づけ(絶対評価)が行われる一方、台湾の入試ではこの指標が用いられている(相対評価)。

4. 繁星計画(2008年度)の実施結果

2008年度は4月9日に最終の合格者発表がおこなわれた⁸⁾。募集人員1,742人に対して、結果的には、1,450名が合格者となり、昨年比775人の増加であった。合格者の出身高級中学等は総計320校となった。1校平均では約4.5人の合格者が出ていることになるが、一つの高級中学からもっとも多く合格者を出した学校では14名が合格となっている。全体で見れば、10名以上の合格者を出した学校は30校(9.4%)、また1名のみ合格した学校が57校(17.8%)となっている。

合格者の出身高校の地域分布をみると、国立の高級中学からは、国立高級中学が設置されている台湾の7つの直轄都市と16の県の地域の学校から合格者を出しており、私立の高級中学からは、7の

表2 25大学の学科能力テストにおける要求基準の分布

| | 学群 | 学系総数 | 「後票」 の学系数 | 「均票」 の学系数 | 「前票」 の学系数 | 「頂票」 の学系数 |
|--------|------|------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 国 語 | 第一学群 | 200 | 1 | 85 | 48 | 14 |
| | 第二学群 | 226 | 1 | 97 | 42 | 2 |
| | 第三学群 | 78 | | 32 | 16 | 1 |
| | 不分学群 | 1 | | | | |
| 英 語 | 第一学群 | 200 | | 76 | 56 | 22 |
| | 第二学群 | 226 | 1 | 74 | 92 | 8 |
| | 第三学群 | 78 | 1 | 35 | 27 | 9 |
| | 不分学群 | 1 | | | 1 | |
| 数 学 | 第一学群 | 200 | 2 | 73 | 30 | 7 |
| | 第二学群 | 226 | 2 | 68 | 68 | 54 |
| | 第三学群 | 78 | | 38 | 22 | 5 |
| | 不分学群 | 1 | | | 1 | |
| 自 然 | 第一学群 | 200 | 2 | 34 | 12 | 1 |
| | 第二学群 | 226 | 2 | 71 | 70 | 43 |
| | 第三学群 | 78 | | 33 | 27 | 10 |
| | 不分学群 | 1 | | | 1 | |
| 社 会 | 第一学群 | 200 | 1 | 56 | 31 | 3 |
| | 第二学群 | 226 | 3 | 76 | 27 | |
| | 第三学群 | 78 | 1 | 21 | 8 | 1 |
| | 不分学群 | 1 | | | | |
| 総 合 | 第一学群 | 200 | | 35 | 31 | 1 |
| | 第二学群 | 226 | 1 | 39 | 16 | 1 |
| | 第三学群 | 78 | | 7 | 7 | 2 |
| | 不分学群 | 1 | | | | |

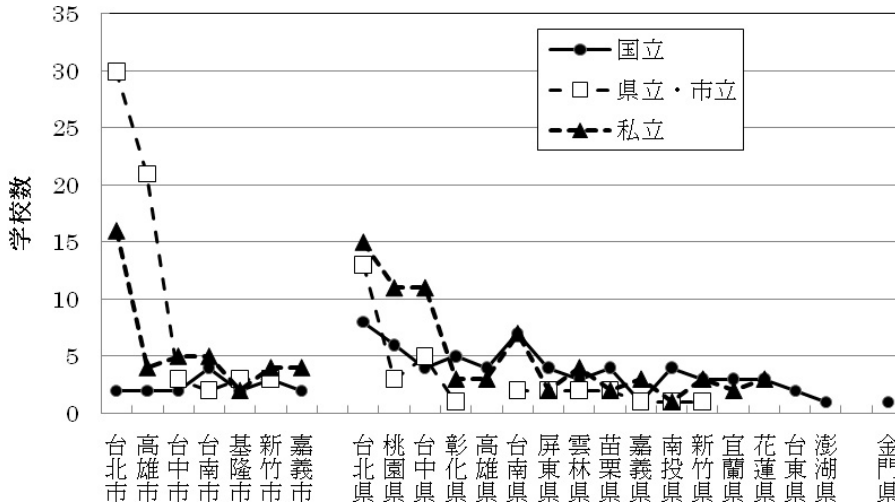


図3 直轄都市・県別の繁星計画（2008年度）合格者出身学校数（高級中学のみ）

直轄都市と12の県から合格者がでている。また、県立・市立の高級中学からは、6の直轄都市と11の県から合格している。他の入学者選抜方法と比較するデータはないが、繁星計画によって台湾の主要な大学に多くの地域から合格者がでている状況であることがわかる（図3）。

今回の訪問調査先の一つの国立高雄師範大学では、今年初めて繁星計画に参加しており、22名の合格者を出した。インタビューを行った李翠玉教授によれば、繁星計画で入学した学生の能力は未知数であり、入学後の状況を分析し、今後の繁星計画実施に活かしていくとのことである。入学後の追跡調査が今後実施されると思われるが、入学者選抜制度の評価をどのような視点で行っていくのか興味を持たれる。

5. 高級中学における進路指導

今回の訪問では、調査の関心の一つに高校と大学の連携が挙げられる。台北市内にある国立台湾師範大学付属高級中学を訪問し、校長を始め教務主任など進路指導にかかわる教員に対しインタビューを行う機会を得ることができたので、以下にその概要をまとめてみたい。

台湾師範大学には、その他の師範大学と同様に附属高級中学が設置されている。この国立台湾師範大学付属高級中学は1937年に設置された伝統校であり、入学時のクラスは、卒業するまでクラス替えもなく進級する。さらに開校時から累積してクラス番号が付されており、2008年3月現在の最も新しいクラス番号は1206である。つまり、入学者の所属するクラス番号は唯一無二のもので、番号から入学年度がわかる仕組みになっている。中学には約700人が在学、高校は約3,100人が在学しており、教職員は約300人である。最初に学校紹介用DVDを視聴したが、日本語版で作成してあり日本とのつながりを強く感じさせるものであった。その後、こちらからの質問に対して答えていただいた。

まず進路指導のスケジュール等について伺うと、生徒は大体高校2年終わりの夏頃（台湾の入学時期は9月）に本格的に受験準備を始めるようである。また、前述の学科能力テスト後の4月に最初の選抜結果がわかるが、合格が決まった生徒は、目標を失うことなく主体的に学校行事に関与しているとのことであった。学校をあげて特に卒業式に力を入れていて、生徒主体のイベントとして、台北市民にも知られている。その一方学校側は、大学進学への準備講座や大学の教養教育に対応する授業を開設し、大学進学への支援を行っている。

また、文系・理系の割合については、ほぼ毎年4(理):1(文)の割合である。男女比は7(男子):3(女子)で、もともと男子校から共学になった歴史がある。さらに、理系に所属している学生で文系の学部を受験する生徒もいるとのことである。

大学への進学状況は、約3割が選抜入学制により、7割が試験分配入学制で入学している。この選抜入学制には成績上位の生徒のみが推薦される。ただし、試験分配入学制においても学科能力テストの結果を用いるため、大学進学希望者は全員2月の学科能力テストを受験し、大学受験をスタートさせる。進路状況としては、8~9割が国立大学進学、そのうち約半数は難関大学に合格している。

生徒の進路選択に当たっては、誰の影響が大きいと尋ねると、先生、保護者（どちらかというとも母親）の順で影響が大きいとのことであった。一方、受験指導の面では、先輩による指導が大変活発で、自分の合格した大学の試験問題や解答例などを報告し、大学ごとの受験対策冊子を作成していた。在校生は、これら先輩の経験を生かして受験に臨むことができるようになっている。

一方、現在の入学者選抜制度については、複雑であって高級中学側の指導が大変であるので、一層の見直しを求めたい、という意見であった。また繁星計画に対しては、都市部の進学実績のある高級中学の現状からは、その魅力は乏しいようである。学力レベルの高い学校としては、繁星計画の趣旨に対し、不公平感を感じている。

台湾の進路指導では、大学選択の指導は余り重要ではなく、大学受験に必要な学力を育成する指導が中心となっている。それは、国立大学の出願に当たって、一般選抜前期日程・後期日程のそれぞれの機会に1大学しか出願できない日本の大学入学者選抜システムと異なり、台湾の試験分配入学制では、一度に100もの大学を志望校とすることができるためと思われる。今後の入学者選抜制度を検討する為に、台湾の現在の制度による実施状況の分析を今後も進めていきたい。

6. 結 語

台湾における大学入学者選抜に関し、大学・高級中学関係者へのインタビューをもとにした現状報告をおこなった。今回の調査では、行政（教育部）と高等教育機関（大学）、さらに中等教育機関（高級中学）の現場で直接担当者から情報を得ることができた。ここ数年だけをみても台湾においては選抜入学制のみならず試験分配入学制においても多くの変更が為され、また社会的にも活発な議論がおこなわれている。

行政による高等教育機関への直接的影響力の行使がどの程度なのか、他国との比較も重要であると思われる。今回取り上げた繁星計画では、都市部と地方の違い等によって、その評価が分かれて

いるが、行政が強くりードした一例ともみえる。本稿では、繁星計画の本来の目的である地域間での教育環境の格差解消については、十分に議論ができていない。今後、繁星計画がどのような推移をたどるのかを明らかにすることで、入学者選抜制度がもたらす社会への影響についても考察を進めることが重要である。

【謝辞】

台湾における訪問調査に際し、教育部曹培林参事、呉珥君研究員、高等教育處担当職員のみなさん、国立台湾大学国際事務處の張純怡さん、教務處職員のみなさん、国立台湾師範大学附属高級中学の楊校長他教職員のみなさん、国立高雄師範大学の載嘉南校長、蔡培村副校長、吳連賞副校長、王惠亮教務長、梁茂森進修学院長、李翠玉研究処推广合作組長、王附属中教務主任には調査にご協力いただき、厚くお礼申し上げます。また通訳業務を担当していただいた台湾国際放送アナウンサー・王淑卿さん、高雄市議会日本語通訳の鄭妮妮さんには大変お世話になり有難うございました。長庚技術学院の謝文慧先生には翻訳にご協力いただき大変有難うございました。

【注】

- 1) 財団法人交流協会（Interchange Association Japan）（東京都）は台湾との実務関係を維持するため1972年外務省及び通産省（現経済産業省）により認可された団体である。
- 2) 台湾の入学者選抜制度、「繁星計画」に関しては、劉（2008）及び南部（2008）の先行研究があるが、特に南部（2008）では「繁星計画」について、その実施目的、経緯、第1回目の実施状況等が詳細にまとめられている。本稿は、「繁星計画」第2回目の実施状況及び高級中学における取組みを中心に論ずるものである。
- 3) 台湾における入学者選抜制度の多様化の経緯については、南部（2006a, b）劉（2008）を参考にした。
- 4) 併せて、各大学の募集単位ごとに予め設定された学科能力テストの基準点を越えた者のうち、高級中学における学業成績の校内順位がより良い者を優先的に合格者とするという合否判定のルールも、合格者を出す学校の拡散に役立っている。
- 5) 「繁星計画」の導入とその後の動向については、南部（2008）、劉（2008）を参考にした。
- 6) 『97学年度 大学繁星招生簡章彙編』に記載されている出願から合格者発表までの流れは以下のとおりである。

【出願期間】

2008年2月27日 午前9時から3月4日 午後5時まで。

【出願方法】

- ① 応募専用のログイン番号及びパスワードは各高校に書類で知らせる。

2008年2月1日までにインターネットによって団体応募ができる各高校にログイン番号

及びパスワードを書類で知らせるので、担当者がそれを慎重に保管するように。

- ② 学生個人の成績及び点数のパーセンタイル対照表をダウンロードする。
各高校は2008年2月1日午前9時から2008年3月4日午後5時までの間に「2008年度大学繁星計画募集処理センター（国立台湾大学教務登録係に設置され、以下は本センターと略称する）のホームページ（<http://reg224.aca.ntu.edu.tw/star>）から学生個人の成績及び点数のパーセンタイル対照表をダウンロードし、応募の参考にすることができる。
- ③ 学科能力テスト成績の要求基準に関する事前確認
各高校は各大学の要求基準に達するかどうかを前もって確認するために、2008年2月27日午前9時から2008年3月4日午後5時までの間に、本センターのホームページによって調べることができる（<http://reg224.aca.ntu.edu.tw/star>）。
- ④ インターネットから学校単位で出願
各高校が推薦する学生の資料を整えた後、規定の期限内に、本センターのホームページ（<http://reg224.aca.ntu.edu.tw/star>）によって、学校単位で出願する。
- ⑤ 生徒個人に関するデータを入力する
 - A. 各高校は生徒を推薦する大学、学群、志望順番などの順で記入し、一人の生徒は一つの大学の一つの学群にしか推薦できない。
 - B. 学生の学力テストの総得点および各科目の等級点数は、インターネットによって学校単位で出願した後、大学入学試験センターから提供される。
 - C. システムは、生徒の高1、高2の各学期の学業成績の総平均、志望する学科〔組〕がリストした高1、高2の各科目の総平均、及び全校におけるパーセンタイルを直接示す。
- ⑥ 応募資料（出願書類）を印刷し、確認する。
すべての生徒に関するデータ入力後、インターネットによる団体応募の校正表を印刷し、生徒の応募資料が正確かどうかを確認する。
- ⑦ 団体応募表及び封筒の専用フォームを印刷する。
各高校は学生の応募資料が正確であることを確認した後、各高校インターネットによる団体応募表及び「97年度大学繁星計画応募専用の封筒フォーム」をプリントアウトする。
- ⑧ 願書に保護者、教務係及び担当者の押印
学校単位での出願表の指定された箇所に、保護者、教務係及び担当者の印を押印する。
- ⑨ 封筒に専用フォームの貼付
各高校は印刷した「97年度大学繁星計画応募専用の封筒フォーム」をB4サイズの封筒の正面に貼り付ける。
- ⑩ 願書を郵送
各高校が願書を整えた後、すべての願書をB4サイズの封筒に入れ、2008年3月6日以前に速達書留で本センターに提出。（中略）郵便消印を受理日とし、遅れた場合は一切受け付けない。

⑪ 受理されたかどうかインターネットで確認

願書を出した後,3日後に本センターのホームページで受け取ったかどうかの確認が可能。

【合格者発表】

2008年3月13日午前9時に本センターのホームページに合格者リストを公表する。

(<http://reg224.aca.ntu.edu.tw/star>)

- 7) 1年目は国立清華大学が学群を指定しない方式で, 募集人員も未定のまま実施しており, 最終合格者150名をここでは募集人員とみなして算出している。
- 8) 当初3月13日に予定されていた合格者発表は延期され, 4月9日に合格者リストが公表された。
(ホームページ <http://reg224.aca.ntu.edu.tw/star> を参照)

【参考文献】

- 岩坪秀一 (1996) 「台湾の大学入試事情」『大学入試フォーラム』19, 大学入試センター, 51-54頁。
- 教育部 (2007) 『中華民国教育統計 民国九十六年版』台北。
- 国立台湾大学教務處 (2008) 『97学年度 大学繁星招生簡章彙編』台北。
- 杉原敏彦・永田純一 (2008) 「台湾における高等教育入学者選抜制度に関する調査報告」『広島大学 入学センターレポート2008』ACIR-0803。
- 南部広孝 (2006a) 「台湾における自己推薦型選抜方法の展開」『大学入試研究ジャーナル』16, 国立大学入学者選抜研究連絡協議会, 173-178頁。
- 南部広孝 (2006b) 「台湾における選抜方法の多様化」『中等教育の多様化に柔軟に対応できる高大接続のための新しい大学入試に関する実地研究』, 科学研究費補助金成果報告書 (研究代表者 白川友紀), 114-123頁。
- 南部広孝 (2008) 「台湾の大学入学者選抜における「繁星計画」の導入と展開」『大学論集』第39集, 広島大学高等教育研究開発センター, 131-142頁。
- 劉 語霏 (2008) 「大学入学者選抜制度」『台湾の高等教育—現状と改革動向—』(高等教育研究叢書95), 広島大学高等教育研究開発センター, 23-34頁。

Diversification of Admissions System in Higher Education in Taiwan

Toshihiko SUGIHARA *

Junichi NAGATA **

In this paper, we focus on the diversification of the admissions system in Taiwan – in particular, on the “Fan Xing Project” and the academic and career counseling offered in high schools. For over 40 years, a single unified entrance examination was conducted for admission to Taiwanese higher education institutions. This, however, changed with the implementation of a diversified admissions system that was developed in the last decade; this new system is mainly driven by the Ministry of Education.

The new admissions system – the “Fan Xing Project” – was initiated in 2007 by twelve leading national universities in order to diminish the inequalities in university admissions to higher education institutions across different areas. It is expected that this project will enable more people from disadvantaged areas to enter these leading universities. In 2007, of more than 3,000 applicants, 675 were selected for admission to these twelve universities, where the recruitment capacity of the 12 universities was totally 786. In 2008, 25 universities (more than twice the figure in 2007) joined this project, and the recruitment capacity increased to 1,742. As a result, 1,450 applicants were finally selected from the whole area. In every prefecture where the national high school exists, there is at least one national high school that has a student who was selected through this project; further, through this project, many applicants from private high schools in different areas were selected. On the other hand, the number of applicants selected from large population centers – Taipei, Kaohsiung, etc. – increased; this is due to the large number of high schools in these cities. Hence, on the surface, it seems that the purpose of the “Fan Xing Project” has partially been achieved.

A criticism, however, pertaining to the inequality seen in high schools has arisen. In the “Fan Xing Project,” the relative capability levels of applicants for each subject in high school are important parameters in the selection procedure. Some argue that applicants with lower capabilities might get selected if the average scores of their schools are low. Several leading high schools have, therefore, not adopted this project. However, most people have accepted the “Fan Xing Project” as an effective approach for improving the educational environment of the whole of Taiwan.

Examinations testing the achievements of students in the basic learning subjects in high schools play a key role in the admissions system, which operates in two ways – one is provided by examinations with recommendation and one by testing basic and advanced subjects without recommendation from high schools or by themselves. In both cases, students have to take examinations measuring their basic capabilities of

* Director and Professor, Admissions Center, Hiroshima University

** Associate Professor, Admissions Center, Hiroshima University

learning subjects studied in the first and second year in high schools. In contrast to the Japanese system, their examination scores are adjusted for different groups according to their group scores. It is this relative score, not the absolute value of the score, that is used for the admission decision. Another difference is the number of application of universities made by any one student. In the way of testing basic and advanced subjects, one student can apply 100 units of recruitments. Therefore, counseling on choice of college becomes a different matter for Japanese and Taiwanese high schools.

In the context of diversification, results of the “Fan Xing Project” will become clear in the future. The universities involved with the project may analyze the students’ scores according to the subjects of their educational programs in universities. It is also pointed out that the need for a support system that is suited to the diversity of students in universities has assumed greater significance.